

第48回「てのひら文庫賞」

読書感想文全国コンクール

文部科学大臣賞 作品

文部科学大臣
最優秀賞

2年・てのひら文庫部門／読んだ本―なんじゃもんじゃ

なんじゃもんじゃはすごいんじや

千葉県聖徳大学附属小学校 深山 武臣

なんじゃもんじゃ。おもしろくて、言いたくなっちゃうことばだなあ。あつという間になんじゃもんじゃが頭からはなれなくなつた。そうしたらびっくりした時に、なんじゃもんじゃって口から出てくるようになった。

ある日、家の中で小さな何かがニョロつとうごくのを見た。ぼくはびっくりして、「なんじゃもんじゃ。何かいる。」って、大きな声でさけんだんだ。するとキツチンにいたお母さんが、「どんなもんじゃ。」と言ってきた。だからぼくは、「すごいんじや。早く来てよ。」って、また大きな声で言ったんだ。そうしたら、なんだかすごくおもしろくなっちゃって、家ぞくみんなで大わらいをした。とくにお姉ちゃんも虫がにがてだから、いつもはこわがって、「キヤー。」とさげぶのに、なんじゃもんじゃのおかげで、みんなで楽しくわらい合うことができた。そうそう、ニョロつとうごいた何か

はね、小さな小さなヤモリだった。ぼくは今、思い出のこのヤモリを虫かごで大切にかつている。なんじゃもんじゃは、ぼくの家ぞくにえがおをくれたんだ。

ねずみの森に、なんじゃもんじやがやってきた。ねずみたちはなんじゃもんじやをおい出すために、よわむしねずみにたべられてみるように言ったんだ。みんながこわがるほらあなに一人で行つて、なかまたちとのやくそくをまもつたよわむしねずみは、よわむしなんかじやない。強くてさい高にかつこういいねずみだ。このさい高にかつこういいねずみは、やくそくをまもるまっすぐな心とゆう気をもつていたんだ。そして、新しいせかいを手に入れた。ほかのねずみたちは知らない新しいせかいをね。このねずみを見て、ほかのねずみたちも、ほらあなの中に何かいいことがあると気づいているはずだ。でもゆう気が出ないから、今もずっとなんじゃもんじ

やをこわがったままなんだ。なんじゃもんじやは、ゆう気を出してちようせんすることの大切さを教えてくれたんだ。

ぼくの家にはヤモリのなんじやもんじやが来て、ねずみの森にはこうもりのなんじやもんじやが来た。もしかしたらなんじやもんじやって、その時のみんなにとつて本当に大切なことを教えてくれる。「げけもの」なのかもしれない。ぼくの家ぞくはあの時、こわがることよりわらい合うことが大切だったんだ。ねずみたちはあの時、ゆう気を出すことが大切だったんだ。

そうか、なんじゃもんじやは「なんだかわけのわからないもの」のままでもいいんだ。だってその時に本当に大切なことを教えてくれるものにはけるんだから。なんじゃもんじやってそのためのまほうの合いことばみたいだ。つきはどこにどんななんじやもんじやがやって来るのかなあ。